

あかるく かしこく たくましく

令和6年10月9日 No. 24 文責：校長 佐野紳二

多文化共生について学びましょう

最近、私たちの身近なところで外国の方に接する機会が多くなってきたと思いませんか？

実際、グローバル化（国境を越えて人や物、お金、情報などの結びつきが強くなり、世界がひとつのようになること）の進展や少子高齢化（14歳以下の人口が少なく、65歳以上の高齢者が占める割合が高い）が進んでいることに伴い、2023年12月末現在で、日本には約340万人の外国人が在住しており、これは日本の総人口の約2.7%（日本人40人の中に、外国人が1人いる）に当たるそうです。そうした世の中では、人種や国籍にとらわれずにいろいろな人と協力し、生活していくことが大切になります。前回の「共生社会」と「ダイバーシティ」に続き、今日は「多文化共生」について考えてみたいと思います。



「多文化共生」とは？

総務省によると、多文化共生とは、「国籍や民族などの異なる人々が、互いの文化的ちがいを認め合い、対等な関係を築こうとしながら、地域社会の構成員として共に生きていくこと」と定義されています。

つまり、日本人であっても外国人であっても異文化を理解しようと努め、一人一人の違いを認め合い、互いに協力し合って豊かな地域社会にして生きていこうとする考え方のことをいいます。

文化って、何？

文化とは、人々が共有する**価値観**、**習慣**、**伝統**、**芸術**、**言語**などのことです。文化は、長い時間をかけて形成され、世代を超えて受け継がれてきました。

文化は目に見えないものであり、具体的な形はありません。しかし、私たちの考え方や行動様式に大きな影響を与えています。例えば、

- ・ 時間に対する考え方
- ・ コミュニケーションの仕方
- ・ 食事のマナー



などは、文化によって大きく異なります。

なぜ「多文化共生」が必要な？



現在、世界的な規模でグローバル化が進むなかで、人・物・お金・文化など、さまざまな面で世界との交流が進んでいます。特に人と人との交流が進むと、異なる文化にとまどいを感じたり、違和感を覚えたりする人も少なくありません。文化の違いを理解できなかったり、受け入れられなかったりすることは、差別につながる可能性があります。

多文化共生は、国籍や人種に関係なく、同じ地域で暮らすすべての人々

が円滑な社会生活やコミュニケーションをおこなうために必要不可欠なものです。さまざまな分野での多様化が進むなかで、お互いの文化に対する理解を深め、歩み寄ることがとても重要です。

また一方で、日本では現在少子高齢化が進んでいます。そのような世の中では、外国人住民は重要な社会の担い手（働き手）として期待されています。実際、製造業や建設業、福祉や介護の分野では、多くの外国人が働いています。今後も外国人材の受け入れ拡大により、地域社会における外国人との接点がさらに増えることが予想されます。

そのため、外国人の人権を保障し、地域住民の異文化理解を深めることで、互いに協力し合える関係を築いていくことが必要です。多文化共生の推進によって、地域社会の活性化にもつなげていくことができるのです。

多文化共生に向けての課題 「慣れ」と「理解」

日本は単一民族国家であり、四方を海で囲まれていることから外国人との交流があまりない国でした。現在でも外国人との接点が少ない日本人が依然として多く、まだまだ異文化理解が十分に進んでいないと言っているでしょう。そのため、外国人住民の人々が地域社会に溶け込むのが難しい状況が見られます。多文化共生を実現するには、お互いの文化的背景を理解し合い、コミュニケーションを深めていくことが欠かせません。

また、一般的な話ですが、まだ言語や宗教、価値観など、外国の文化的背景に対する日本人の知識や理解は十分とは言えません。そのため、外国人住民の生活習慣や信仰を尊重し、必要な支援を行うことが難しい現状があります。多文化共生を進めるためには、私たち一人ひとりが外国文化への理解を深めていく必要があると考えられます。

多文化共生のために 私たちができること

多文化共生のために、私たちにどんなことができるでしょうか。次のようなことをはじめてみよう。

①多様性を受け入れる

異なる文化や価値観を持つ人々とともに生きていくためには、文化や習慣の違いを知り、受け止めることが大切です。またていねいなコミュニケーションをとり、互いに理解し合うようにしましょう。こうしたことを積み重ねて、多様性を受け入れることが多文化共生につながっていきます。

②偏見や無意識のバイアスをなくす

偏見や無意識のバイアスは、相手のことを知らず、理解していないことから生まれます。こうした偏見や無意識のバイアスは、多文化共生の妨げになってしまいます。自分のなかにある偏見や無意識のバイアスに気づくこと、そして相手と十分なコミュニケーションをとって理解することが大切です。

③ボランティアや交流イベントに参加する

多文化共生を推進するボランティア活動や交流イベントは、各地域で行われています。こうしたものに参加すれば、異なる文化や価値観を持つ人々への理解を深められるのではないのでしょうか。

ユネスコ憲章では、「人種、性別、言語、宗教、国籍またはその他の地位による差別なく、すべての人々が教育を受け、文化を分かち合い、その恩恵にあずかる権利」を保障しています。私たち一人ひとりが、異なる文化や民族を尊重し、理解しようと努めることは、未来の平和な世界の実現に向けて大きな力となるでしょう。



参考文献：SDGsメディア「Spaceship Earth」<https://spaceshipearth.jp/multicultural-coexistence/>
Pekoe Magazine <https://pekoe.ricoh/pekomaga/tabunkakyousei-toha>
ELEMENIST <https://elemenist.com/article/3649>